

第4回 那須塩原駅周辺まちづくりグランドデザイン会議 会議要旨

○日時 令和8(2026)年3月31日(火) 13:00～15:00

○場所 BLUE NOTE PLACE(東京都渋谷区恵比寿4丁目20-4 ガーデンプレイス内)

○出席者

【ボードメンバー】※敬称略、五十音順。

新井良亮、石井剛史、金指潔、北山孝雄、丹下慎也、涌井史郎(座長)

【那須塩原市】渡辺市長ほか

○次第

1. 開会
 2. 座長挨拶
 3. 市長挨拶
 4. 内容(非公開)
 - (1) 今年度の事業報告について
 - (2) 議事A: 広域での価値づくりについて
 - (3) 議事B: 駅前の拠点づくりについて
 - (4) 令和8年度の事業スケジュールについて
 5. 座長総括・閉会
- ※内容の各項目に対し、適宜意見交換を実施。

○会議要旨

1. 開会
2. 座長挨拶
3. 市長挨拶
4. 内容(進行: 涌井座長)
 - (1) 今年度の事業報告について
 - (2) 議事A: 広域での価値づくりについて
 - (3) 議事B: 駅前の拠点づくりについて
 - (4) 令和8年度の事業スケジュールについて

<意見交換におけるボードメンバーの主な意見>

- 駅前に予定されている広場は、奥の山々へと連なるロケーションや駅前から伸びる長い広場としての特徴を踏まえると、那須塩原駅に降り立つ観光客や地域住民にとって心の拠り所となる空間となることに加え、まちのシンボルとしての役割も期待される。

今後、この広場のデザインを具体的に決めていくプロセスでは、訪れた人が那須塩原のセンスを体感できるよう、デザインは慎重に検討すべきである。

- 地方再生に必要なのは「投資」であり、若い世代を巻き込みながら、地域、行政、鉄道会社の三位一体でまちづくりを進めることが重要である。
- 駅前を「緑を感じるような場所」にすることは待ったなしである。ファンドを形成して資金を集めるなど、賛同企業と協力して駅前を良くする仕組みづくりが必要である。
- 駅周辺の乱開発を防ぎ、景観をしっかり作る仕組みを整える必要がある。初期投資を抑え、駅中や高架下等の既存インフラを活用した、収益性の取れる事業から始めるのが良いのではないか。
- 広域的なストーリーの中で、那須塩原駅前をどう位置づけるかという議論が必要である。既存の制度の延長ではなく、新しい先導的なモデルを提案し、文化（音楽など）の要素を駅前に入れて化学反応を起こさせるのが効果的である。
- 駅前の具体的な空間イメージやコンテンツが描けておらず、5年間の会議で具体策に乏しい。何が根本的な要因になっているのかを明確にし、実現可能なものに絞り込んで具体的な提案を出し、前に進める時期に来ている。

5. 座長総括・閉会

- この5年間で市民が主体的になって参加し、地域の理解が少しずつ進み、夢を共有できる可能性を見出してきたことは大きな成果である。
- 今後は、徒労感のないような形で具体的な道筋を取りまとめ、次につなげていただきたい。

文責：那須塩原駅周辺整備室